



縄文村、 1, 2位を争う (!?) 人気イベントを開催！！

6月に開催した「縄文の漁り」^{すなどり}、「縄文の塩作り」は、縄文村イベントの中でも大人気で、今年は応募者多数のため抽選にしたほど！
初夏の里浜縄文人たちの暮らしを体験するイベントをご報告します。



こんなに小さく作れたし…。今年も釣れちゃうかも！

ふふふ…

縄文の 漁り すなどり

里浜貝塚から大量に出土する「鹿角製の漁労具」。縄文人と同じように、鹿の角を削って釣り針を作り、海釣りをする「縄文の漁り」を6月11日に開催しました。海釣りは秋に延期となりましたが「縄文の釣り針で釣るぞ！」と張り切って製作を始めました。



里浜貝塚出土の釣り針未成品

縄文人の釣り針の作り方がわかる貴重な資料。縦に板状に割った角から形を切り出しています。



その手があったか！と、常連さんのあいだで上部を削り落とす作り方が大流行。大きさは現代に近づいていますが、技術は縄文人に近づいている？

今年は初参加の方も多く、鹿角のあまりの硬さに悪戦苦闘。そんな初心者さんに対して常連さん達は、「今年こそ釣果をあげる！！」とすごい勢いで削っていきます。その熱意で、縄文時代の釣り針よりもはるかに小さい、現代の釣り針ほどの大きさの釣り針が次々と完成しました。

縄文の 塩作り

炎天下で海水を煮詰め続ける過酷なイベントながら、年々人気が高まっている「縄文の塩作り」。6月26日、第1回目の製塩土器作りを開催し、今年は44名が集まりました。

製塩土器は、実用性を重視した極めてシンプルな造りの土器です。薄く、高く粘土を積み上げていくことを意識しますが「横に広がってどんぶりみたい！」「バランスが難しい！」と見た目以上に形を作るのは難しいよう。縄文人の技術の高さに驚いた皆さんでした。

「自分で作った塩の味が楽しみです」「たくさん塩を作りたい！」と、塩作り本番を楽しみにしていました。



里浜貝塚出土の製塩土器



予約不要で体験できます！

夏休み企画

おいでよ、縄文村へ！

8/11(木)～14(日) 入館料+各種体験料

🕒 9:30～15:00 (14日のみ10:00～15:00)

レギュラー 毎日できます！

- 貝塚ガイドツアー (¥0) 10:00 発
- まがたま作り (¥400)
- シカ角ストラップ (¥400)
- 火おこし (¥150)
- 丸木舟作り (¥0)
- ギャラリートーク (¥0) 13:00

日替わり 特別メニュー

- 11日 / イノシシ土鈴 (¥300) ※お渡しは9月下旬頃。粘土で可愛いイノシシ作り。
- 12日 / 釣り針作り (¥500) シカの角で釣り針を作ろう。
- 13日 / コハクのまがたま (¥1200) 樹脂の化石コハクを削ろう。

無料DAY

14日は、どなたも入館&体験無料で楽しめます！

火おこし/まがたま/シカ角ストラップ/縄文コースターから2つ選べます。

東松島市の文化財 月観の松

みなさん、東松島市が市木として指定している樹木の種類は何かご存じですか。それは、マツ科の常緑高木であるクロマツです。クロマツはオマツともいわれ、東日本大震災前は、野蒜地区の洲崎浜や東名運河沿いに松林が続く景色が広がり、海風や砂を防いでいました。

今回は、市に縁の深いクロマツの中でも、大曲字宮前にある宮城県指定天然記念物「月観の松」を紹介します。「月観の松」の樹齢は1,000年と推定され、樹の高さ16m、幹の周り4.2m、枝張が東西25m、南北20mをなす巨樹です。中心の幹は根元から8mほどで屈曲し、太い枝が四方に広がり、小枝が傘状に垂れ下がっていて、たいへん美しい樹形を形成しています。周囲を田畑に囲まれ、平地が広がる周辺環境にあるため、遠くから臨んでも孤高のクロマツの巨樹として私たちの目を引きつけます。

名前の由来は、平安時代の豪商金売吉次がこのあたりに居をかまえ、「月を見ながら酒を飲んだ」という言い伝え

から。金売吉次の存在については諸説ありますが、金の産出に縁のある古代東北と都とのつながりの中で富を築いた逸話が人々の心を揺り動かしたのだと思われま。

宮城県内のクロマツとアカマツでは、いわゆるマツクイムシによる枯死が多発し、松島湾一帯でもその対策が課題となっています。被害が拡大し、巨樹、名木が希少となっている中で、県内最大級のクロマツであり、樹形優美、樹勢良好な「月観の松」は、文化財的価値が高く、県内唯一のマツの宮城県指定天然記念物として多くの人々の目を惹きつけています。

